

2019 年度

神戸大学大学院経営学研究科（専門大学院）

シラバス（MBAゼミ）

授業科目 MBA ゼミ（社会人大学院科目）

担当教官 伊藤宗彦

開講日 9月21日（土）、10月26日（土）、2月1日（土）、3月7日（土）

上記以外に追加日程を加えます。

時期年度以降は土曜日のうち予定を決めます。

ゼミは、基本的に第1-5眼に開講します。

教室 六甲台キャンパス

1.ゼミの考え方

ゼミの基本的な方針は、専門職学位論文を作成するための知識・能力の開発です。ゼミのメンバーに期待するのは、出来る限り、自社の競争力の向上につながるような提言を含む、実践につながるテーマ選定です。特に、上司、ひいては経営陣も、すぐに実行したくなるような論文を目指していただきたいというのがゼミの方針です。既に、社会経験の豊富なゼミのメンバー構成になっていますので、一方向の指導ということにはなりません。ゼミの方針として、指導教員とのディスカッションだけではなくメンバー同士の相互観照など、多面的な方法を取りたいと思います。

テーマ内容に関しては、ビジネスに関わることを全般としますが、製品開発、新事業開発、技術革新、サービス、サプライ・チェーンなど、あらゆる方向からのイノベーションに関わる方向性となる研究を対象とします。特に、製造業、サービス業という業種は問いませんが、モノとサービスという概念は、重要となっています。高度成長期以降、日本の成長のエンジンとなってきた製造業に関しては、MOT(Management of Technology) と呼ばれる技術経営への関心が高まり、技術経営の専門職大学院の設立、MBA でのカリキュラムの導入が進み、また、社員教育として全社で取り組む企業もあります。私自身、経済産業省、NEDO といった科学技術の推進母体とともに、MOT による人材育成プログラムの開発のプロジェクトに数多く参画してきました。

しかしながら、産官学によるMOT人材育成事業は、期待ほど取り組まれてきませんでした。その理由の一つは、多くのイノベーション研究は、主に技術・製品開発段階において、どのようにマネジメントされるべきなのか、そのための組織構造がどのように設計されるのか、そのインパクトの大きさはどのように測定されるのだろうか、という新たな価値創造と価値獲得のためのマネジメントの課題として、多くの研究者によって取り組まれてきました。しかも、その価値創造については、製品アーキテクチャ論に代表されるように、組織マネジメントと製品構造の関連性、つまり、モノから見るというアプローチが取られてきた経緯があります。一方、サービスは人的な要素が強く、日常的に体験できるという性質があ

ります。製造業におけるモノに対して、サービス業でのサービスは、在庫をすることできないことを意味する無形性、お客と対面するほんの一瞬しか満足を与える機会がないという即時性、時間や場所によって内容を変えなければならない異質性などといった、サービス特有の性質が存在し、従来の MOT 教育では捉えきれない側面を持っています。製造業では、イノベーションは技術・製品開発といった手に触れることのできるモノに対して考えることができたが、サービスは人的な要素が強いため、そのイノベーションの対象は製造業とは異なります。かといって、サービス業では、ある意味、製造業以上にイノベーションが重要となることは重要な点です。

本ゼミでは、技術・製品開発だけではなく、原材料から加工され製品に仕上げられ、流通を経て店頭に並び、それが消費者の手に渡り消費されるまでの長いバリューチェーン全体を研究対象とします。言い方を換えると、サプライ・チェーンとダイヤモンド・チェーン全体をいかに設計するかという極めて広く、長い範囲が対象となります。本ゼミでは、新たな理論体系の構築を目指し、企業経営の徹底的な分析に基づく実践的な研究を目指します。

2. ゼミ・スケジュール

①9月21日(土) 1,2 限 (3,4,5 限は M2 のポスターセッションへ参加)

初回のゼミにあたって、各人の現在の研究上の問題意識(仕事の上での問題意識でも可)、今後研究したい内容について、A4/1枚以内にまとめ、ゼミの人数分(16名)用意してください。一人5分程度、紹介いただき、ゼミ生の問題意識と研究の方向性を相互観照し、共有したいと思います。そのうえで、私の方からプレゼンを行い、ディスカッションしたいと思います。

②10月26日 1-5 限「研究テーマについての問題意識の確認」

各メンバー、10分程度のプレゼン、10分のディスカッションを行います。配布資料、PPの資料を用意してください。テーマの方向性について、プレゼンしてもらいますが、あまり、細かな内容に捕らわれず、問題意識、研究課題を中心に考えてください。各人の研究の方向性に合わせて、参考図書、参考文献など、個別にアドバイスします。

③11月～1月の課題

課題図書、参考文献を読み込み、研究の方向性について、構想を考えてください。既存研究、特に、名著と呼ばれるよく読まれた論文・図書からは得るものも多いと思います。おそらく、この時期しか、既存研究のレビューを行うまとまった時間はないかもしれません。自身で参考になりそうな文献を探索することも重要なポイントとなります。

④2月1日 1-5 限「リサーチプロポーザルの作成」

既存研究、問題意識、研究課題をまとめ、リサーチプロポーザルとしてまとめます。そのさ

い、リサーチクエスチョン、仮説などが提示で来ていることが重要です。仮説を検証するための方法論などにも言及できていれば、次のステップに入り易くなります。

⑤3月7日1-5限「研究計画のブラッシュアップ」

研究計画の仕上げを行っていきます。ゼミでのディスカッション、アドバイスを受けて、研究計画を再度、練り上げます。また、データ収集や具体的な分析の方法論などが示されることも必要です。データ収集などを手掛けるなど、フィールドリサーチに取り組んでください。

⑥その他、追記事項

ゼミの進行に合わせて、外部講師、企業からのゲストスピーカーなどの招聘を考えます。また、ビデオ教材による講義なども、適宜、ゼミの中で行います。

参考図書

Christensen, C.M. (1997), "The Innovator's Dilemma," Harvard Business School Press

(玉田俊平太訳 (2011)、『イノベーションのジレンマ 増補改訂版』翔泳社)

Christensen, C.M. and M.E. Raynor (2003). "The Innovator's Solution: Creating and Sustaining Successful Growth." Harvard Business School Press, Boston

(玉田俊平太訳 (2003)、『イノベーションへの解』翔泳社)

Clark, K.B. and Fujimoto, T (1991), "Product Development Performance," Harvard Business School Press (田村明比古訳 (1993)、『製品開発力』ダイヤモンド社)

Fine, C.H. (1998), "Clockspeed : Winning Industry Control in the Age of Temporary Advantage," Perseus Book Group

(小幡照雄訳 (1999)、『サプライチェーン・デザイナー企業進化の法則』日経 BP 社)

参考文献 (個別に推薦しますが、例えば以下のような文献はぜひ読んでください)

Dosi, G (1982) "Technological Paradigms and Technological Trajectories," Research Policy 11, 3, pp.147-162

Henderson, R.M. and K. B. Clark (1990). "Architectural Innovation: The Reconfiguration of Existing Product Technologies and the Failure of Established Firms." Administrative Science Quarterly, Vol.35, pp.9-30